

活動名 第 21 回青少年日韓交流	団体名	社会福祉法人 防府海北園
	地域	山口県防府市
	代表者	基幹的職員 岩城 淳
	支援金額	30 万円
活動概要		
<p>児童養護施設防府海北園は1994年の8月に子どもたちと韓国を訪れ、「日韓民間養護施設入所児童のための国際交流」として、日韓青少年交流キャンプを行った。</p> <p>その後日本から訪問する年と、韓国から来日する年を隔年で行い、2泊3日の日程の中で様々なプログラムを通して文化交流やお互いの理解といった異文化の体験活動を継続し、今年度は第 21 回日韓青少年交流キャンプを実施した。</p> <p>これまでの「日韓民間養護施設入所児童のための国際交流」のプログラム内容と目的としては、一緒に観光することでの、自国文化の説明と再確認や、異国文化をその国の同世代の子と共有するための、その都市のショッピングモール、博物館、水族館、歴史資料館、広島平和記念公園、等の見学を行う。</p> <p>また、体験型プログラムから共通の目的に向かって協同することで、相手を理解し、受け入れ、自分の意見を伝える力をつける事を目的とした、地元のスーパーでの買い物を含めた野外炊飯や、アドベンチャープログラムを実施してきた。</p> <p>◆実施時期 日程 : 2014(平成26)年 8 月 18 日～2014(平成26)年 8 月 20 日 場所 : 福岡県朝倉郡筑前町三箇山1103 国立夜須高原青少年自然の家</p> <p>◆参加人数 参加人数 34名(韓国18名、日本16名) 参加施設数 10施設(韓国6施設、日本4施設)</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:34 名</p>		



一緒に食事



九州国立博物館前にて



豪雨の中の野外炊飯



大宰府の歴史を一緒に学んでいます

◆実施に伴う効果

初日からの両国の高校生たちによる、積極的で友好的な交流会が行えました。隣国の友人としての良い関係を築き、今後の両国のさらなる良好な関係作りのリーダーとなってくれる事を期待できる交流となりました。両国の社会的養護のもとで生活する子ども達にとって、グローバルな視点の入り口となりました。また、両国の我々大人が強い絆のもと、手を取り合い協働して実施してきた日韓交流の歴史を、子ども達に伝えることが出来ました。

◆苦勞した点

2014年4月16日に大韓民国の大型旅客船「セウォル」が、全羅南道珍島郡の観梅島沖海上で転覆・沈没した悲しい事故を受けて、韓国側は釜山港から下関ターミナルへのフェリーでの来日を中止し、初の飛行機での来日となりました。20年間、下関国際ターミナルからスタートし、山口、広島を活動の中心としてきた歴史からの新たな一歩となる日韓交流となりました。

今回に関しては、豪雨のために雨天プログラムでの実施となりましたが、雨が特にひどい期間と場所だったため、雨天プログラムも中止と変更を要しました。日本で受けるに当たり、現在の日韓情勢を考慮して、特にスタッフは全力でのおもてなしを意識し、韓国の方々に日本に対する良好な友情を感じて頂きたいと考慮しました。

◆今後の課題・発展の方向性

上記「苦勞した点」の日本側の友情に、韓国の皆様には全力で答えて頂けたと実感しています。来年の韓国での開催に対する多くの歓迎の言葉と、日韓青少年交流キャンプの今後の継続、プログラムの多様化について話し合う事が出来ました。

この活動は、21年間途切れることなく実施されてきました。両国の友情の懸け橋となる活動であると自負していますが、さらなる発展と社会的な理解と協力を得るためには、子ども達の日韓交流継続の重要性についてメディアを活用して発信したく思っています。

◆活動を終えての感想・意見等

日韓青少年交流キャンプの打ち合わせも兼ねて、例年6月頃に「日韓児童養護施設職員セミナー」を実施しています。児童養護施設職員に留まらず、教育、行政も含めて多くの方にご参加いただきました。今年度は、両国の社会的養護の方向性としての「里親さんとの協働」を研修課題の中心とし、韓国からは、里親委託率や里親制度について報告がありました。日本からは東北震災支援と里親制度、協働について報告がありました。

最後になりましたが、公益財団法人マツダ財団様より第21回日韓青少年交流キャンプの主旨にご理解を頂き、多大なる経済的ご支援を頂きましたことを感謝いたします。

再来年の日本での開催に向け、韓国の子供達とウィンタースポーツを実施したいという思いがあり、初の冬季開催を考えています。しかし、そのための経済面での課題は大きく、マツダ財団様の2016年第23回日韓青少年交流キャンプへのご支援を賜りたくお願い申し上げます。

